

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690500042		
法人名	有限会社さざなみ		
事業所名	さざなみ京都南 3階		
所在地	京都市南区上鳥羽奈須野町23		
自己評価作成日	平成29年8月20日	評価結果市町村受理日	平成29年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2690500042-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地1		
訪問調査日	平成29年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

楽しく・自由に・ありのままにの理念に基づき、できる限り、利用者様が望むことに沿ってケアをすることを心掛けている。
その人の人生の終末をお世話させていただくことの重みを尊重して、最後までその人らしく生活できることを目指して介護をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都市南区上鳥羽の周りを畑に囲まれた静かな地に、大阪に拠点を持つ有限会社「さざなみ」が平成25年3月に地域密着型事業所として「さざなみ京都南」を開設された。1階を小規模多機能事業所とし、2階から4階をグループホーム3ユニットとして27名の方々が暮らしている。本社の理念に基づき、さらに3項目からなる「職員の心がまえ」を示し、日々のサービス提供に努めている。職員にとって「働きやすい職場作り」を目的として人材育成に努めている。入居者にとって良いと思われる事は、速やかに実行に移す職員・休日にボランティアで裏庭の草むしりをする職員・外国籍を持つ職員等などやさしい気持ちで介助を担う職員がいる。地域との交流にも心配りをしていいる。入居者に夏の風物を楽しんで貰いたいと「流しそーめん」を企画した際、町内会の方の協力で洛西の青竹が入手でき、地域の方達と共に実践できた。日常的に少食の入居者が、そうめんを沢山食べられたことを職員が共に喜んでいいる。地域の夏祭りなどにも協力・参加して、事業所全体で地域の一人として馴染みの関係作りをしていいる。入居者の穏やかな表情・笑顔と共に入居者同士が気配りしている光景から、日常的な支援を計り知ることが出来る事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で理念を毎朝唱和してから報告をしています。	運営母体である有限会社「さざなみ」の理念を事業所の理念とし共有している。朝礼時に全員で唱和し、理念に基づいたサービス提供に努めている。「楽しく・自由に・ありのままに」とする理念は入居者一人ひとりを大切に、ゆとりのある日常生活を確保する事であり、入居者の穏やかな笑顔から日々の支援の状況が垣間見ることが出来る。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や祭りに参加することや、ボランティアによるカラオケ大会を毎月開催しています。	地域の一員として町内会に入り、回覧板を通して地域の情報を得ている。町内会の方の協力を得て洛西の青竹を貰って「流しそめん」のイベントが実施できた。近隣の方の参加もあって楽しいひと時が過ごせた。地域の夏祭りにも、射的や輪投げのコーナーを受け持ち交流の機会を持っている。地域との交流を大切に考え実践に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に対する地域の理解を深めて頂く活動については、現在、上鳥羽地区の役員様方と検討しているところです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でフロアの報告を行い、ご意見を頂いている。	地域包括支援センター職員・入居者・本部役員・管理者などが参加し、併設の小規模多機能居宅介護事業所と合同で開催している。事業所から、現状・行事・事故・ヒヤリハット・苦情など状況報告を行った上で、参加者より意見を出して貰っている。地域行事や看取りの実践・食事についての意見が出ている。現在のところ、運営推進会議として参加者など充実しているとは言い難い面があるが、「運営推進会議の在り方」を重要課題として認識しており「今後充実に努めていく」としている。	出席者に事業所の状況をくわしく報告し、地域の情報や意見を聞き取っておりますが、参加して下さる方が少ない様に思われます。地域性もあるかと思われませんが、身近な家族・町内会長・民生委員などに運営推進会議の重要性を説明されて協力をお願いされたら如何でしょうか。仮に出席して頂けなくても、事前にご意見を聞き取っておかれて、会議で報告し記録されるのも一つの方策ではないかと思われまます。定期的に来所される医師や看護職からのご意見もあれば会議で報告される事をお薦め致します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自治会に加入して、会長や上鳥羽あんしん・安全委員会の会長と共に、地域の災害対策などについて協議しています。	必要に応じて随時、行政の担当者と状況報告や相談を行うように、双方向での情報交換に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	と各フロアでスタッフ全員に周知し、身体拘束につながる行為を特に強く意識するように指導しています。	「高齢者虐待防止と身体拘束ゼロ」をテーマとして職員研修を行っている。全職員に、身体拘束・虐待についての考えを文書で提出させて「自ら考える」方策を実施している。身体的のみならず精神的な「言葉の暴力」についても指導し、職員間でも注意し合っている。	

京都府 グループホーム さざなみ京都南 (3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に繋がる行為についてはフロアで話し合いを行い、もつながらかねない行為があった場合には、注意すると共に、教育指導を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	フロアでだれが後見制度を利用しているかなどを把握して、制度の存在と意義について理解するように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書と運営規定の内容を理解し、家族様からの質問にはフロア単位でも応答できるように心掛け、応えきれない内容については上司にエスカレーションする体制を整えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族様との話し合いや会議で要望を汲み取り、意見を反映するように努めています。	入居者からの意見・要望などは、日常的に会話から聞き取っている。家族などからは、来所時に介護支援専門員や介護職員が忌憚のない意見・要望を聞き取るように努めている。運営に関する意見などは出なくて個別の支援に関する事例が多いので、可能な限り改善に繋げている。玄関に「ご意見箱」を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議やフロア会議、リーダー会議を通じて職員意見を反映させています。	研修を主とした全体会議やフロア会議・リーダー会議などを利用して職員からの意見・要望を聞く機会としている。また、日常的にも、朝礼時に個別援助に関する提案など出し合っている。提案事項は速やかに実行している。夏の「流しそーめん」などもその1例である。1階廊下の一角に「職員意見箱」を設置している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト作成時に、月に3回までの希望休を聞き入れるなど、働きやすい環境づくりにも努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務実績の良い職員には更に経歴を伸ばせるように講習・研修を受講してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのネットワークを構築しているが、更に勉強会などに繋げていくよう努めている。		

京都府 グループホーム さざなみ京都南 (3階)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスを行うことと家族様の要望を聞くことを心掛けている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望に耳を傾けている。また、可能な限り以降に沿えるように努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階で必要になる情報を調査してプランに反映させている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に一人の家族として暮らして頂けるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の出来事について、家族様と情報共有するようにしながら、暮らしぶりをその人のペースでしていただけるようにしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方との会いや、外出をして楽しんで頂いています。	親しい友人が、採れたての野菜など届けに来て下さる事もある。ボランティアでカラオケと一緒に楽しみに来所される方があったり、3ユニットのグループホームの入居者と併設の小規模多機能の利用者とが合同でイベントを楽しんだりして、新しい馴染みの関係作りもしている。地域の夏祭りに参加して交流の機会にしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を見極めて、仲良く暮らして頂けるように心掛けている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的に家族様への声かけや事業所などとの連絡を取り合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での変化に気づき、発見し、希望や意向をできる限り把握するようにしている。	入居前に、本人・家族などから過去歴や心身状況・入居後の希望など聞き取ってアセスメントを取っている。その後、日常の生活状況から「その人らしさ」を収集出来るように努めている。しかし、現時点では、アセスメント・再アセスメントの取り方に課題があると認識し、今後検討を重ねて改善する方向で考えている。	入居者の「思い」に関わっている全職員が日常生活の中で汲み取り記載する方策を工夫される事が重要と思われます。沢山の情報を集める事で「その人らしさ」を的確に把握できサービス提供に繋がられて、一人ひとりの満足度向上に役立つでしょう。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔の様子を会話や生活ぶりから見取り、他のスタッフとも情報を共有しながら把握するように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の小さな変化に気づくように心掛けており、現状の変化を常に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活記録の充実を図っているところです。ケアの内容について記録を書き残す習慣をつけるように努めているところです。	介護支援専門員は、日常の個別記録やカンファレンスから情報を収集して纏め、介護計画を作成している。また、日常的に、入居者・家族など・職員との会話の中から必要な情報を得るように努めている。医療関係者からの情報も得て、実情に即した介護計画作成に繋げている。	
		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた内容を情報共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズを斟酌してきめ細かなケアを行うように心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用については、地域との話し合いを行い、実現に向けて取り組んでいる最中です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	吉祥院HPとの連携の下で、往診を臨時往診を適宜行っている。	かかりつけ医の選択は、本人・家族などの希望を尊重しているが、協力医療機関からの複数の医師の往診を受けて、日常的な健康管理を委ねている。定期的或いは随時の往診で24時間体制が確立できている。緊急時も適切な対応が受けられ、看取りの実践につなげられている。希望に応じて訪問歯科の受診の対応も行っている。	

京都府 グループホーム さざなみ京都南 (3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職にフィードバック、フィードフォワードを常に行い、健康管理に留意しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様、家族様と相談しながら、医療機関との連携を図り、早期退院を目指しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナル時の対応を家族様や本人様と話し合い、情報を職員同士で共有しながら、穏やかな終末を迎えられるように、医療機関との連携もとりつつ取り組んでいる。	事業所としての「重度化した場合の対応にかかる指針」「看取り介護にかかる指針」を文書化し、入居時に説明した上で本人・家族(身元引受人)の同意を文書で得ている。本人の状況・家族などの事情を鑑みながら、協力医療機関の援助を受けて「人生最後の別れ」を事業所で支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法と連絡先を掲示しており、即座に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、スタッフと共に利用者様にも参加して頂いている。	年2回の避難訓練・消火器具の扱いなど訓練している。夜間想定訓練・水害など自然災害の訓練は、今後の課題として検討している所である。5階建て(鉄骨造)なので、災害時には地域住民への一次避難場所として提供すべく関係機関と調整する案を持っている。備蓄としては、ローリングストックとして、食料品などを備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プレイバシーには配慮し、羞恥心を煽るような言動や人前での行動には注意するように努めている。	理念と共に、職員の心がまえとして「入居者様お一人おひとりの存在と尊厳を認め受け入れる事でお一人おひとりに『生まれてきてよかった』と思っただけの介護施設となる」と表明して日々のサービス提供に努めている。行動を抑制するような言葉遣いなど、特に気を付けるように指導している。また、プライドやプライバシーを損ねないように、排泄や入浴時の介助には充分配慮して行っている。実践状況は、入居者と職員の笑顔から推察出来る。	

京都府 グループホーム さざなみ京都南 (3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々接する中で利用者様の思いをスタッフに伝えていただけるように空間づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	残されている力で可能な限りご自分で身の回りのことをして頂けるようにスタッフ同士で話し合い、支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	理美容で極力ご自分の身だしなみを自己決定できるように支援している。また、服装についても自分で可能な限り選択できるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブルの片付けや消毒、エプロンの折り畳みや食事後のふき掃除などを一緒にしている。	各フロアで、入居者の好みを配慮しながらメニューを工夫して調理している。現在の所入居者の残存能力を鑑み、テーブルのセッティングや片付けを入居者が手伝っている。オープンキッチンのリビングルーム側にも洗い場を設けているので、ここで自分のコップを洗うことにしている。食事中は「おいしいなあ」と声を掛け合いながら楽しそうに食事している風景を見ることができた。また、懐かしい童謡などテープで流しているため、何人かの入居者たちがハミングして「幸せそうな表情」が印象的であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量について摂取量に注意して記録して足りない場合には補填するように代替食品などで支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士との連携の下で、口腔ケア時に口腔内の状態を確認して報告・相談している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を重視している。サイクルを把握するようにして、便の形状や尿の色合いや量も含めて確認するようにしている。	排泄チェック表を活用して、随時声掛けや誘導を行ってトイレでの排泄を支援している。便秘がちの入居者には、服薬の時間調整を行い、失敗のないように工夫している。入院中はおむつ使用の場合であっても、退院後は職員がカンファレンスで話し合いおむつを使用しなくても良い方策を考え支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操を1日に3回はして頂いている。朝食にはバナナとヨーグルトを召し上がって頂いています。		

京都府 グループホーム さざなみ京都市南 (3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調によって入浴サイクルを変化させている。バイタル測定や気分なども見計らって朝か昼かを分けている。	その日の体調を考慮しながら入浴を決めている。 入浴日でない時は、足浴をしている。アロマオイルを活用して、体を温めると共にアロマの香りを楽しんで貰っている。ゆずの季節には「ゆず湯」を楽しんで貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活ペースに合わせた起床・就寝を心掛けながら、お薬の服用をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を確認し、体調不良の時には往診を依頼し、即座に服薬して頂けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の体調に合わせて洗濯物の量や収納などを一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	金銭的余裕のある方には買い物などの外出を楽しんで頂いているが、余裕のない方々には難しい状態である。	近くの公園に弁当持参で花見に出かけたり、季節ごとの外出は楽しんで貰っているが、日常的な外出の頻度は少ないのが現状である。今後、1階の裏庭を整備して活用したいと考えている。外気浴・日光浴を兼ねて、花や野菜の栽培を楽しむ機会の場所にしたいと職員は草引きなどして頑張っているところである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コーヒーや買い物などの時に所持して頂いている。施設や後見人やご家族様の管理の下で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望された場合には支援させて頂いている。		

京都府 グループホーム さざなみ京都市南 (3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	折り紙やちょうちんなどを飾り付けている。	玄関を入るとすぐ前のエレベーターで各フロアへ上がるようになっており、ゆったりと清潔感のある廊下を進むと明るいリビングダイニングがある。適度な明るさがあり、南側に開いた大きな窓から高速道路が眺められ、行き交う車の流れを垣間見ることができる。室内も広くのんびりと過ごせる空間がある。壁面は、華美な装飾もなく入居者の笑顔あふれる写真が貼られている。オープンキッチンから煮炊きの匂いが漂ってきたり、立ち働く職員と声を交わしたり日常生活の雰囲気にあふれている。不快を感じるような、音や臭いなど感じられなく穏やかに過ごせる共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテレビを置いたり、利用者様同士のスペースに気配りをして座席を決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものをできるだけ使用していただくようにしていただいている。	居室は、それぞれ筆管や好みの家具を持参されて使いやすいように配置されている。位牌を安置してその日のおやつをお供えする入居者もある。家族などの写真を飾って、心の安らぎを得ている入居者も多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置やふろの位置を目で見てわかるようにしており、居室にも名前をつけて目で確認できるようにしている。		